zantenii, *Calyptothecium acutum* (=*C. extensum* Fleisch.), *C. macgregorii* の4種は，新しくパプアニューギニアに知られるものである。分布上からみると，南太平洋の諸島にひろく分布するもののほか，ニューギニア特産やオーストラリア系のものがある。各種については，それぞれの生育環境を詳しく記した。

○ヒゴミズキとショウコウミズキについて（山崎　敬）　Takasi YAMAZAKI: On *Corylopsis coreana* Uyeki and *C. coreana* var. *pubescens* Nakai

ヒゴミズキは熊本県の球磨川流域の1部に稀に見られるもので，中井猛之進氏(1939)が朝鮮のショウコウミズキ *C. coreana* Uyeki と同種と考え，その毛の多い変種ケショウコウミズキ var. *pubescens* Nakai として発表したものである。中井氏は中国地方，九州のものもショウコウミズキに当て，葉柄や花序軸に毛の多い球磨川の一部のものをケショウコウミズキとして区別した。しかしこの見解は支持されず，中国地方，九州のものはコウヤミズキとして扱われている(山城ほか，熊本県植物誌，1969；岡ほか，山口県植物誌，1972)。山中二男氏(1986)は日本，朝鮮のトサミズキ属を再検討し，ショウコウミズキはコウヤミズキと同じものとし，球磨川流域のものをその品種 f. *pubescens* (Nakai) Yamanaka として扱い，和名には九州で呼ばれているヒゴミズキを使用したらと提案された。

ショウコウミズキは植木秀幹氏(1924)が新種として発表したもので朝鮮南部の岩地にはえる。葉は大きくて厚く，倒卵円形または円形，一般に長さ 7-15 cm，幅 7-12 cm あり，ハシバミの葉を思わせる。葉柄も長く，長さ 1.5-3 cm あり，歯牙の先の突起はごく短い。日本のコウヤミズキとは外観がかなり異なる。ただ花序や花はコウヤミズキと異ならないので，その変種として区別するのがよいと考える。中国地方のものはコウヤミズキであってショウコウミズキとは異なる。

ヒゴミズキはコウヤミズキに似るが葉柄や花序の軸に長毛がはえ，しばしば短い腺毛が混じる。葉柄や花序の軸に毛のある点はトサミズキに似るが，蒴筒は無毛である。毛の程度には多少変異があり，中井氏は一部を中国地方のショウコウミズキ（コウヤミズキ）と同じとし，一部をケショウコウミズキとしている。しかし，コウヤミズキは葉の裏面に長毛があるが，葉柄や花序の軸は無毛で，ときに短い腺毛が散生するだけである。ヒゴミズキは常に葉柄や花序の軸に毛があるので，山中氏のようにコウヤミズキの地方型として認められる。ただ，球磨川地域だけにまとまっているので変種として扱うのがよいと考える。中井氏は球磨川地方の標本のうち，花期のものをショウコウミズキとし，果期のものをケショウコウミズキとしている。また後者に朝鮮の花期の標本をあげ，ケショウコウミズキが朝鮮にも分布するとした。朝鮮のものは栽培されていたもので，ケ

ショウコウミズキの記載には，朝鮮の山からの移植であるとわざわざ記してあるが，蕚筒に毛のある点からしても，この標本はトサミズキであって，ショウコウミズキやコウヤミズキの系統のものではない。ヒゴミズキは九州だけにしか見られない。

もうひとつの問題はコウヤミズキとキリシマミズキとの関係である。一般に両者は別種として扱われている(大井，日本植物誌，第2版, 1975；北村・村田，原色日本植物図鑑 木本編 II, 1979)。しかし山中氏(1986)は両者を同一種内の変種関係のものとした。コウヤミズキの雄しべは長さ 8-10 mm で花弁とほぼ同長であり，葯は赤色である。花弁の基部にある仮雄蕊は楕円形で先が2裂している。葉身はときに卵円形のものがあるが一般に卵状楕円形のものが多く，歯牙の先の突起は長さ約 1 mm であまり長くない。キリシマミズキの雄しべは長さ 4-5 mm で花弁の約半長であり，葯は黄色である。仮雄蕊は棒状の2本に深く2裂している。葉身は卵円形で歯牙の突起は長さ 1-1.5 mm で長い。葉身の形や歯牙の突起は変異があるので傾向的な差異であるが，雄しべが短いこと，葯が黄色いこと，仮雄蕊が異なることは重要な性質である。葯が黄色いことはもう少し確認する必要があるし，仮雄蕊の形も変異があるのでないかと思うが，コウヤミズキとはかなり異なっているのは事実である。取り上げられる特徴は少ないけれど，両者は別種として扱ってよいと思う。トサミズキ属は中国大陸が中心で，中国大陸に約20種知られている。日本と同様，多くは狭い地域に隔離分布していて相互の差異は微妙なものが多い。種間の差があまりないのがこの属の特徴であろう。今のところ，日本の種類と一致するものは見あたらない。

ショウコウミズキとヒゴミズキを上記のように扱うと，学名は次のようになる。

Corylopsis gotoana Makino var. **pubescens** (Nakai) Yamazaki, comb. nov. ヒゴミズキ

Corylopsis coreana Uyeki var. *pubescens* Nakai in Journ. Jap. Bot. 15: 737 (1939) pro parte, excl. Korean specimen.

Corylopsis coreana Uyeki form. *pubescens* (Nakai) Sugimoto, New Keys Woody Pl. Jap.: 505 (1972).

Corylopsis glabrescens Fr. et Sav. var. *gotoana* (Makino) Yamanaka form. *pubescens* (Nakai) Yamanaka in Act. Phyt. Geobot. 37: 104 (1986).

Distr. Kyusyu (Pref. Kumamoto).

var. **coreana** (Uyeki) Yamazaki, comb. et stat. nov. ショウコウミズキ

Corylopsis coreana Uyeki in Suigen Gakuho 41: 8 (1924), not seen. Nakai in Journ. Jap. Bot. 15: 735 (1939), pro parte, excl. Japanese specimens.

Distr. Korea.

(東京大学 理学部附属植物園)